



大同特殊鋼株式会社
2025年度第3四半期決算説明会
質疑応答（要旨）

開催日 2026年1月29日（木）
出席者 取締役常務執行役員 梶田 聡仁
取締役常務執行役員 岩田 龍司
執行役員経営企画部長 岸 幹根

Q. 第4四半期は第3四半期に比べると減益計画であり数量影響が大きいがその要因を教えてください。

A. 毎年の傾向ではあるが稼働日数が少ないことや数年前に変更になった収益認識基準影響などがある。収益認識基準変更によって売上計上は当社からの出荷時ではなく顧客への着荷時に計上することになった。簡単に上げると月末最終日出荷分は翌四半期の売上に計上にされる。具体的には9月末日出荷分は第2四半期の売上ではなく第3四半期の売上となる。12月末は年末休暇があり第4四半期に繰り越す売上がない。3月末日出荷分は翌年度第1四半期の売上となる。その結果、第4四半期の売上は第3四半期に比べて少なくなってしまう。

Q. 第3四半期と第4四半期の利益水準に段差があるが、来年度の業績を予想する上でどのように考えればよいか教えてください。

A. 第3四半期と第4四半期の平均値をもとに見ていくのが妥当であると考えている。したがって、下期の調整後営業利益184億円の平均値92億円程度が四半期の利益目線である。これに受注状況等を精査した上で25年度決算説明会のときに開示させていただく。

Q. 磁石製品の受注動向について教えてください。

A. 引き合い状況は10月末の決算説明会の状況から変わらずに堅調である。現在、仕様のすり合わせやサンプル出荷など量産受注につなげられるよう取り組んでいる。売上収益の推移グラフについて、今回の説明会資料から中国の清算会社の売上収益を除いたグラフにした。2017年度を100とした場合、2024年度は109、2025年度4-12月は124と増えており、新規引き合いが受注につながったことによる効果が入っていると見ていただきたい。将来的にも戦略商品として利益貢献度がより高まってくるものと期待している。

Q. 利益計画の上方修正については受注が堅調であることと為替が円安で推移したというコメントがあったが、売上数量増加の背景や為替影響について教えてください。

A. 売上数量増加は主に構造用鋼である。自動車向け、軸受・産機向けで計画していた数量よりも多く出荷できた。日系自動車メーカーの生産は大きく上振れしているわけではないが、在庫調整が進んで底打ちに近い状況であると捉えている。

為替については 10 月末の決算説明会で 25 年度下期計画の前提を 145 円/\$としたが第 3 四半期は平均で 154 円/\$であった。その影響については簡易的な分析ではあるが売上では 8~10 億円程度増収となった。原燃料コストアップも含めると 6~8 億円程度の増益につながった。

Q. 半導体製造装置向けステンレス鋼の受注動向について教えてほしい。

A. 10 月末の決算説明会で説明した状況から大きく変化しておらず、2026 年度に入ってから回復を期待している。需要家の状況によって濃淡はあるが、一部の需要家から第 4 四半期にむけて増産の引き合いをいただいております。現在対応中である。

Q. 電力単価の状況やサーチャージ影響について教えてほしい。

A. 電力単価は原油価格、為替など複数の要素が絡んでくるので一つ一つの要因について解説するのは難しいが足元はほぼ横ばいで推移している。したがって、サーチャージ影響はほとんどないと考えていただきたい。

Q. 自由鍛造品の受注動向について教えてほしい。

A. 航空機、船用バルブ、重電、産機・プラント関連の受注は非常に堅調に推移している。特に航空機関連は四半期ごとに受注額が増えている状況にある。掘削関連は原油市況低迷により調整が継続しており、米国内で在庫がまだかなりあるという情報も聞いている。認証の拡充は進んでいるので受注環境が戻ることを期待している。

Q. Ni 価格が上昇しているがその影響について教えてほしい。

A. Ni 価格の変化は製品価格に反映するようにしている。足元の価格上昇についてもそれに見合って製品価格を変更していく。若干の時期ずれはあるかもしれないがある程度の期間で収斂するものと考えていただきたい。

Q. 自由鍛造品の船用バルブの受注動向について教えてほしい。

A. 一部上期に前倒し出荷したという話を 10 月末の決算説明会でしたが、第 3 四半期についても上期とほぼ変わらない水準であり今後も順調に推移するものと考えている。

Q. 特殊鋼鋼材の数量増について他社の操業トラブルによる応援の影響はあるか教えてほしい。

A. 具体的な数量を申し上げることはできないが、2025 年度見通しに少量ではあるが織り込んでいる。

Q. 2025 年度見通しの上振れ要因について解説してほしい。

A. 特殊鋼鋼材セグメントについては構造用鋼の受注増などによるものである。自動車部品・産業機械部品セグメントについてはフジオーゼックス(株)のエンジンバルブが堅調に推移していることなどによるものである。

Q. Ni 価格が上昇しており先高観もあるなかで受注の前倒しが起きているか教えてほしい。

A. 受注環境については微増であり今のところ大きな変化はない。今後の動向をよく見ていく。

Q. チタン製品の受注動向について教えてほしい。

A. ある程度予期していたことではあるが現在は在庫調整の局面である。在庫調整がどの時期に落ち着いて2026年度以降の受注がどうなるかは注視していく。

Q. 第4四半期の見通しについて上振れ要素があるかどうか教えてほしい。

A. 第4四半期は第3四半期対比で価格変化や原燃料市況影響でのマイナスを織り込んでいるが、為替レートを150円/\$で計画していることが大きい。為替レートがどの水準で落ち着くかは読みにくいところではあるが円安で推移すれば上振れすると考えている。

Q. 2025年4-12月の内容差マイナスについてセグメント別に教えてほしい。

A. 特殊鋼鋼材セグメントについては工具鋼の減少である。市場が縮小するなかで非常に苦戦しているが中期計画に織り込み済みである。数量が少なくなっていくなかでいかに利益を確保するかがポイントになるが、日本高周波鋼業(株)買収による生産アロケーション見直しも絡めて来年度以降の事業設計をしっかりと考えていきたい。

自動車部品・産業機械セグメントについては掘削関連の減少である。2024年度は掘削バブルと言ってもいいぐらい数量が多かったが、2025年度は原油市況の低迷により前年度対比マイナスが大きくなってしまっている。

Q. 日本高周波鋼業(株)買収による影響は今回の見通しに織り込まれているか、2026年度以降のシナジー効果について教えてほしい。

A. 日本高周波鋼業(株)買収による影響は今回の見通しには織り込んでいない。2月2日にグループ化した後、具体的な数値や事業内容を両者でしっかり議論しながらシナジー効果発現にむけて検討していく。

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えていただきますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で利用される場合におきましても、各自の判断と責任において利用されるものであり、本資料にある情報の利用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。